

(別紙様式2-2)

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（平成30年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 善通寺市立西中学校
- (2) 所在地 香川県善通寺市文京町四丁目1番1号
- (3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数、（平成30年4月1日現在）

| 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | 特別支援学級 | 児童生徒数計 | 教員 |
|------------|------------|------------|-----------|--------|-----|
| 3学級 87名 | 3学級 95名 | 3学級 87名 | 3学級 9名 | 278名 | 29名 |

2 研究主題等

- (1) 研究主題 互いに支え合い 高め合い、生き方についての考えを深める特別の教科 道徳をめざして
- (2) 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標「互いに支え合い 高め合いながら課題の解決に努める生徒の育成」の下、教育活動全般を通じて互いの人間性を認めながら、本音で語り合える学級づくり、仲間づくりに取り組んでいる。しかしながら、各種学力調査の生徒質問紙の結果、社会性・道徳性の質問項目で依然として気になる回答があった。また、要となる道徳の時間においては、読み物資料の心情理解に偏った指導や教師の価値観の押し付けに近い指導も見られた。さらに、各学年団に道徳の運営が任されていたため、全教職員で情報共有する機会も少なかった。

そこで、校内指導体制を見直し、教育活動全体を通じた道徳教育の推進をはじめ、多様な体験を積み重ね、自己を見つめ、互いの考えを交流し合うことにより、人としての生き方・在り方について多面的・多角的に考えさせる指導方法を模索し、本校の道徳教育の目標を実現したいと考えた。

- (3) 研究内容及び方法

- ① 道徳教育の充実を促す指導体制

道徳教育推進教師の役割を明確にした全校的な指導体制の構築（チームとしての道徳教育の推進）

- ② 考え・議論する道徳の授業づくり

- ア 研修計画の立案
- イ 自我関与の意識を高めるモラルジレンマによる授業改善
- ウ 一人一人のよさや成長を実感させる評価の工夫

- ③ 保護者・地域との連携

- ア 道徳通信の発行（保護者や地域への情報発信：月1回程度）
- イ 地域とつながるボランティア活動

- ④ 心に訴えかける環境づくり

- ア 校内掲示の工夫
- イ 朝の道徳
- ウ 全校・学年一斉道徳

3 研究実践

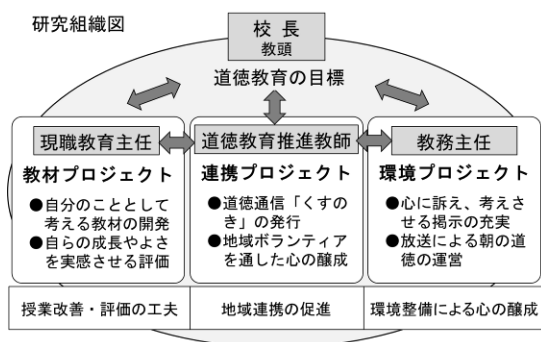
- (1) 道徳教育の充実を促す指導体制

研究を推進する上で、校内体制は非常に重要である。校長の方針の下、道徳教育推進教師を要として、全教職員がチームとして取り組める体制づくりこそ、すべての出発点である。そこで、本校では、全教職員が、

3つのプロジェクトに所属し、研究・実践を進めることとした。

1点目は、現職教育主任をチーフとした教材開発や評価研究を行う「教材プロジェクト」、2点目は、道徳教育推進教師をチーフとした道徳通信や地域ボランティアの中核となる「連携プロジェクト」、3点目は、教務主任をチーフとした校内掲示や放送による道徳を運営する「環境プロジェクト」である。それぞれ、授業改善・評価の工夫や地域連携、環境整備による心の醸成という役割を担う。そして、それぞれが相互に関わり合っており、本校の道徳教育の目標達成に向けて取り組む。

具体的な連携の方法としては、各学年団の職員が、それぞれのプロジェクトに分担して所属することにより、円滑な運営ができると考えた。また、学年を越えて情報の共有化を図るために、それぞれのプロジェクトのチーフ3名が集まって協議する「道徳ミーティング」を設定した。このミーティングは、学年団それぞれの工夫や課題を共有するとともに、プロジェクト単位での取り組みを統一し、発展させる上でも有効であるとする。ただし、こうしたミーティングの時間をどのように確保するのが問題であった。そこで、本校では、3名のチーフの時間割を調整して、週時程にミーティングを組み込むこととした。このことで、無理なく継続かつ効率的に情報の共有化が図れている。



| プロジェクト・主な役割 | 道徳ミーティング | | |
|--|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|
| | 1年団 | 2年団 | 3年団 |
| 教材プロジェクト ●自分のこととして考える教材の開発 ●自らの成長やよさを実感させる評価の工夫 | 教師A 教師B 教師C | 現職主任 教師I 教師J | 教師R 教師S 教師T |
| 連携プロジェクト ●道徳通信「くすのき」の発行 ●地域ボランティアを通じた心の醸成 | 道徳主任 教師D 教師E | 教師K 教師L 教師M | 教師U 教師V |
| 環境プロジェクト ●心に訴え、考えさせる掲示の充実 ●放送による朝の道徳の運営 | 教師F 教師G 教師H | 教師N 教師O 教師P 教師Q | 教務主任 教師W 教師X 教師Y |

- 各学年・各プロジェクト間の調整・共有が可能
- 週時程(空き時間)に組込むことで、無理なく時間を確保

(2) 考え・議論する道徳の授業づくり

① 研修計画の立案

道徳の授業等を充実させるために、本年度の研修計画を次のように設定し、研究を進めた。

| 月 | 研修計画 | 具体的な内容 |
|-----|---------------------------|---|
| 4～5 | 研究計画 | 全体計画、年間計画立案、研究体制整備、研究主題・内容等の検討 |
| 6 | 授業研究① | 1年「キャッチボール」C一(2)公正、公平 1年「決勝戦」B一(3)信頼・友情 3年「多様な性の在り方を考える」B一(4)相互理解、寛容 指導者：香川大学 植田和也教授 |
| 6～7 | 道徳科の評価の方向性 | 保護者への説明資料の検討、評価の方向性についての共有 |
| 8 | 校内研修 | 1学期の実践の振り返り |
| 10 | 先進校視察① | 愛知県扶桑町立扶桑北中学校 (丹葉地方教育事務協議会委嘱 研究発表会) 愛知県弥富町立弥富中学校 愛知県教育委員会義務教育課 |
| 11 | 先進校視察② 先進校視察③ 授業研究② | 神戸市立義務教育学校港島学園 (全日本中学校道徳教育研究大会) 愛媛県西条市立西条西中学校 (道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 研究発表会) 2年「氷河上の決断」D一(1) 生命の尊さ 指導者：香川大学 植田和也教授 |
| | 要請による指導訪問 | 2年「20の勇気」A一(4) 希望と勇気 |
| 12 | かがわの教育づくり | 研究発表(研究のまとめリーフレット配布) |
| 1～3 | 次年度構想 | 本年度の反省、教科書に準拠した全体計画・年間計画・別葉の作成 |

② 自我関与の意識を高めるモラルジレンマによる授業改善

道徳の授業の質的な変換を図るために、「登場人物への自我関与」が重要である。「自我関与」とは資料の登場人物の心情を重視するのではなく、自分自身を投影させて考えることである。他人事ではなく、自分自身のこととして捉えさせるために、「あなたならどうするか？」という発問の構造となるように心がけている。

実践ア 教材名「1通のメール」C一(2)公正、公平

この教材では、主人公の女子が、自分の悪口を親友が言っているとある男子から聞き、メールでその親友の悪口を多数の友達や先輩に伝えた結果、親友が学校を欠席するようになる。そして、主人公の女子は自分の行為に疑問を持つようになる。こうした内容は、現実の学校生活でも起こりうる話である。この話を読み、どこが問題かを考えさせたあと、友達が自分の悪口を言っていることを耳にしたら「あなたならどうするか？」と問いかけた。その後、どのようにすれば良かったかをグループで話し合い、全体で考えさせた。授業を振り返っての感想には次のようなものがあった。



- ・ 一時の感情で行動してしまうと、取り返しのつかないことになってしまう。うわさを鵜呑みにしないようにしたい。
- ・ これから先、一番起こりそうだなと思った。もしこんなことが起きたら、私はちゃんと話し合おうと思う。

どの生徒も、自分のこととして受け止めた様子とその意見からうかがえた。

実践イ 教材名「氷河上の決断」出典「クレバスに消えた女性隊員」D一(1)生命の尊さ

事実にもとづくストーリーであり、山岳登山隊の女性隊員の一人がクレバスに転落する。救出が困難な状態にある隊員を前に救出活動を継続すべきか、否かを判断するというものである。単に「生命は大切だ」という価値を押しつけるのではなく、問題解決的な学習の手法により、「自分が隊長の立場なら、隊員の危険を冒してまで救出することが最善なのか」と考えさせ、生命を大切にするとはどういうことなのか、友達の考え方に触れながら自分なりの結論を練り上げていった。



この授業ではティームティーチングの形態により、二人の教師が「救助を継続する」、「救助を打ち切る」のそれぞれの立場に寄り添い、より意見を活発にした。授業のまとめでは生命に対する自分の考えの変遷をまとめ、自分の生命観について再認識させた。授業の振り返りでは、



- ・ 今回の授業を通して、命の重さについて改めて考えさせられた。
- ・ 命に関わることを考えるのは、あまりにも重く、難しいと思いました。決断するにはとてつもない覚悟がいる。

といった意見が出された。

今回の事例のように「生命尊重」を扱ったものは、生徒にも教師にも重く、慎重に考えたい内容のものが多。しかし、そこでいかに生徒の価値観を引き出して吟味させるかが授業における大切なポイントである。

実践ウ 教材名「20の勇気」A一(4)希望と勇気

小さなことでも勇気をもって実践することが大切であり、達成感を得ることが人生を切り開いていく原動力となることを認識させることを目標としてこの授業を行った。

はじめに、生徒への発問として、自分にとって勇気が必要なことは何なのかを考えワークシートに記入させた。その後、自分たちが考えた勇気が必要なことについて、班で意見をまとめ、短冊用紙に一つずつ記入し、黒板に提示させた。すると、自分には勇気が必要ないようなことでも勇気が必要な人もいるのだということが分かり、自他の考え方の相違に気付いたようである。



また、黒板に提示した勇気が必要なことの中から、自分が大切にしたい「勇気」ベスト3を選び、ランキング化することで、価値葛藤が起こるようにした。振り返りでは、最後にこれからの1週間自分で実践したい勇気を書かせることで、日常生活においても実践していこうとする意欲付けを行った。

- ・ 黒板に貼られた自分にとっての勇気の中には、「人と話すこと」などがあって、とても共感した。でも、中には「こんなことに勇気があるのかな」と思う意見もあって、やっぱり人それぞれなんだなと思いました。
- ・ 勇気があることはそれぞれ違うから、頑張っている人を踏みこむようなことは言わないようにしたい。

といった意見が出された。

③ 一人一人のよさや成長を実感させる評価の工夫

道徳の時間の評価（生徒のよさや成長ぶり）を保護者に通知表でお知らせするために、道徳科のねらいや変更点などと一緒に周知した。校内においては、各教員間で表記のブレが生じないように、評価文例を作成し、記載するポイントを共有した。当然、一人一人の生徒の実態に即して、学習状況を称賛したり励ましたりすることで、更なる意欲喚起を図ることが目的であるため、評価文例をパターン化してそのまま写し取ることに陥らないように留意している。また、大きくくりなまとまりの中で評価を行うには、継続的に生徒のよさや成長の様子を適切に見取っていかねばならない。したがって、そうした生徒理解の工夫や学習指導要領の趣旨理解等を深める研修を今後もさらに充実させていきたい。

保護者の皆様へ
平成30年度 通知表「特別の教科 道徳」の評価について
徳島市立西中学校

1 特別の教科 道徳（道徳科）について
中学校の学習指導要領が改訂され、来年度から道徳が「特別の教科 道徳（道徳科）」として教科化されます。道徳が教科化される背景は、次のような現代的な課題について考える機会が求められたためです。

- (1) 深刻でないための防止や解消に向け、道徳を中心として心の醸成を図りたい。
- (2) 情報通信技術の発達に伴う人間関係形成のあり方について学んでほしい。
- (3) 地域や家庭環境が変化しても、変わることのないルールやマナーについて見つめ直してほしい。
- (4) 諸外国よりも低い自己肯定感や社会への奉獻意識を高めさせたい。
- (5) 正解が1つではない価値観やものごとについて互いに尊重してよりよい方向性を導き出してほしい。こうしたことから、道徳科の目標が次のように示されました。

「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値観についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」

そして、具体的なポイントとして、次のような点が掲げられています。

- (1) 道徳科に指定教科書を選択（中学校では、来年度から使用します）
- (2) いじめ問題への対応の充実や発達の問題をより一層踏まえた体系的な内容に改善
- (3) 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れた「考え、議論する道徳」を工夫
- (4) 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価 など

現在、西中学校でも、道徳科への円滑な移行に向け、校内体制の整備に取り組んでいます。その中でも特に、道徳科の評価については、本年度より通知表に評価項目を追加し、毎学期お知らせすることとしました。

2 道徳科の評価について

(1) 評価の基本的な考え方
道徳の授業において、一人ひとりの発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じ、特に次の点に注目して具体的な状況を評価します。

- いろいろな考え方に触れ、自分自身で考える中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - ※ 自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面をいろいろな視点から考えようとしている等
- 多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
 - ※ 講義や教材の登場人物自身に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として考えようとしている等

(2) 評価上の留意点

- ・ 数値による評価ではなく、学習の状況を具体的に記録します。
- ・ 一つ一つの項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とします。
- ・ 他との生徒と比較するのではなく、個々の生徒が成長したかを確認、励ます評価とします。
- ・ 特に、授業を通して、より多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を積極的に見取ります。
- ・ 高校入試に使用する調査票には記載せず、入学後進級の合否判定に活用することはありません。

以上、保護者の皆様にもご理解いただき、ご協力のほどお願いいたします。

保護者向けの通知文

道徳科の評価文例（案）
徳島市立西中学校

| 記入例 | 字数 | 記入例 | 字数 |
|---|----|--|----|
| 「教材名や主題名」の学習では、登場人物の立場を自分自身に置き換えて考え、悩み、葛藤していき「〜したい」と振り返るなど、自らを省みようとする態度が見られました。 | 79 | 「教材名や主題名」の学習では、「大きな声で挨拶できないときがあるから、これからは〇〇していき」と振り返るなど、自らを省みようとする態度が見られました。 | 78 |
| 「教材名や主題名」の学習では、「失敗しても…〇〇〇〇〇〇にしたい」と発表するなど、どのような結果になろうとも、過程を大切にしようとする意欲が感じられました。 | 79 | 「教材名や主題名」の学習では、「ネットでは〇〇は見えないが、相手の気持ちを想像して、〇〇することを実行」と述べ、ネット社会の在り方について考えを深めました。 | 79 |
| 「教材名や主題名」の学習では、困難や失敗を乗り越え、目標に向けて努力することの大切さに気付き、今の自分の生活を見直そうとする気持ちをもつことができました。 | 78 | 「教材名や主題名」の学習では、地域社会がボランティアに携わる方々によって支えられていることを知り、自らも人の役に立ちたいという気持ちをもつことができました。 | 78 |
| 「教材名や主題名」の学習では、「〇〇が〇〇〇〇から、差別が生まれると思う。人の嫌がることをしていないか疑問」といった正義感あふれる思いを示しました。 | 79 | 「教材名や主題名」の学習では、自分も誰かに支えられていることに気付く、「様々な人やものに感謝し、支えられる人になりたい」という思いを抱くことができました。 | 78 |
| 「教材名や主題名」の学習では、「いじめは、いじめられている人の苦しみを少しでも想像すればいなくなる」という意見を教友に訴えかける姿が印象的でした。 | 77 | 「教材名や主題名」の学習では、「働くことの価値が分かった。何事も態前に取り組み、仕事をしている人に感謝したい」と、感謝の心を持つことの大切さに気付きました。 | 79 |
| 「教材名や主題名」の学習では、偏見や先入観にとらわれず、その人らしきを見つめようとしていました。また、誰にでも公平に接する姿勢が発言からもかみかみしました。 | 77 | 先生の発問や友だちの発言を聞く態度から、授業の主題を真摯に考えていることが伝わりました。どの教材でも様々な立場から考え、自分なりに理解しようとしていました。 | 79 |
| 礼儀について、日常の体験を重ねながら考えを深めていました。特に、相手の人格を認め、尊敬や感謝の気持ちを具体的に示すことが礼儀であると気付くことができました。 | 79 | 〇〇への気持ちや誇りが込められていることに気付きました。自他の価値観を見つめたからこそ、見えてきたのだと思います。 | 79 |
| 「教材名や主題名」の学習では、友だちの意見を深く聞く中で、将来の夢や目標を実現するには、あらかじめ〇〇することが大切と気付く、感謝を深めることができました。 | 79 | 「聞きながら、常に自分の部分で意見を述べられるので、学級全体の話し合いが表面的なものに留まることなく、主題を深く掘り下げるきっかけになりました。 | 76 |
| 「教材名や主題名」の学習では、「〇〇で困っている友だちがいれば助けてあげようと思いました」と思いやふれる気持ちを抱くことができました。 | 79 | 一部であり、小さな存在である、「人間も自然の自然に対する自分なりの考えを表現することができました。 | 73 |
| 「教材名や主題名」の学習では、単に思いやりや感謝が大切だけでなく、相手の立場に寄り添い、受け入れようとする姿勢がなにより大切であることに気付きました。 | 79 | 「教材名や主題名」における話し合いでは、積極的に自分の思いを発表する一方、発言が苦手な友だちの発言も引き出すようするなど、さりげない配慮が感じられました。 | 79 |
| 道徳の授業全体を通じて、友だちの意見に謙遜に耳を傾けるとともに、自分自身の考えを深めていくとする態度が顕著にかみかみしました。 | 64 | 「教材名や主題名」の学習では、教科書と映像資料から自分の考えを深める一方、積極的に意見交換し、〇〇の大切さについて深く考えることができました。 | 77 |
| 時と場に応じた適切な言動や感謝の気持ちをもつことの大切さ考える中で、自分自身の態度や行動を振り返り、学校生活で実践していこうとする姿勢が感じられました。 | 77 | 「教材名や主題名」の学習では、人間には弱さもあるが、それに向き合う強さもあることに気付く、自分の弱さを克服したいという思いを感情に結びつけました。 | 77 |
| 「教材名や主題名」の学習では、自然との共生や環境保全に強い関心を持ち、有限な人間の力を越えたものを謙遜に受け止めるようとする心情をもつことができました。 | 76 | 単なる感情だけでなく、自分自身を見つめ直すことで見えてきたことや友だちとの交流で深めた考えを感情豊かに発言し、学級全体の思考を深めてくれました。 | 73 |
| 「教材名や主題名」では、他教科での学びや自分の住む地域行事を例に挙げながら、長い間大切にされてきた伝統文化に愛着をもって意見交換をしていました。 | 73 | 「教材名や主題名」の授業では、「人には自分の弱さや強さを克服するための仲間がいるし、知恵や誇りがある」と述べ、観点の観念に感心させられました。 | 73 |

道徳の評価文例

なお、学年末には大きくくりなまとまりの中での評価とするが、1・2学期においては、生徒のよさや成長の様子が本人・保護者に具体的に伝わるように記述している。

| 学期 | 1学期 | 2学期 | 学年末 |
|----------|--|--|---|
| 視点 | 授業での具体的な頑張りの姿 | 内容項目の理解の様子 | 全体・年間を通じての育ち |
| 評価 文例 | 「教材名や主題名」の学習では、登場人物の立場を自分自身に置き換えて考え、悩み、葛藤していました。その中で多様な価値観を認める気持ちが芽生えたように思います。 | 礼儀について、日常の体験と重ねながら考えを深めていました。特に、相手の人格を認め、尊敬や感謝の気持ちを具体的に示すことが礼儀であると気付くことができました。 | 先生の発問や友だちの発言を聞く態度から、授業の主題を真剣に考えていることが伝わりました。どの教材でも様々な立場から考え、自分なりに理解しようと努めていました。 |

(3) 保護者・地域との連携

① 道徳通信「くすのき」の発行（月1回）

保護者・地域との連携のための取り組みの一つとして、本年度から、道徳通信「くすのき」を発行している。タイトルの「くすのき」は、中庭から全クラスを見渡す西中のシンボルである。地面に力強く根を張り、どっしりとした幹でそびえ立つ楠の木のように、様々な経験を自分が成長する機会と捉え、栄養分をしっかりと吸い上げ、豊かな心を育ててほしいと願い、このタイトルをつけた。



道徳の実践を地域に発信（双方向性の通信を目指して）

通信は、本年度に入って、毎月1回程度発行しており、日頃の道徳の授業の様子を中心に、本校で行っている道徳教育について伝えている。また、この通信は、保護者や学校評議員はもちろん、校区内の公民館にも配布し、そこから、地域の方々に配布していただくように依頼している。さらに、双方向性のある通信とするために、秋の通信から、返信欄を設けることとした。通信を読んだ保護者や地域の方から、感想や意見などをいただき、よりよい道徳通信や道徳の授業を目指している。

地域の方々からの返信

- いつも拝見させていただいています。学校の様子がよく分かり、子供たちの成長ぶりもうかがえます。これからもよろしく願います。
- 御近所の方やイベントの来賓にも西中の道徳通信をご案内させていただいています。子どもたちの心を育てるのは、大人たちの責任でもあります。私共も子どもたちへの声かけを大切にしたいと思います。

② 地域とつながるボランティア活動

本校では、従来から数々のボランティア活動に取り組んでいる。その中でも、本校の特色ともいえる「お接待ボランティア」は、総本山善通寺の境内にて、年に2回実施している。お接待ボランティアとは、善通寺にいられたお遍路さんや観光客の皆さんにおもてなしの心を持ってお茶などをふるまい、旅の疲れを癒してい

地域ボランティア

- あいさつボランティア
- 清掃ボランティア
- お接待ボランティア
- 夏休みクリーン作戦
- 夕涼みボランティア
- 市民ふれあいフェスティバル ボランティア
- 医療センター屋上庭園ボランティア
- 街頭募金ボランティア
- 幼稚園ふれあい体験 など



ただく取り組みである。全学年からボランティアを募り、総本山善通寺で夏は冷たいお茶、冬はお茶を温めて配っている。また、お茶だけでなく、手作りのアクセサリやしおりも配布した。お遍路さんや一般の参拝者だけでなく、世界各地からの観光客との交流もあり、生徒も積極的に英語で話しかける姿が見られた。

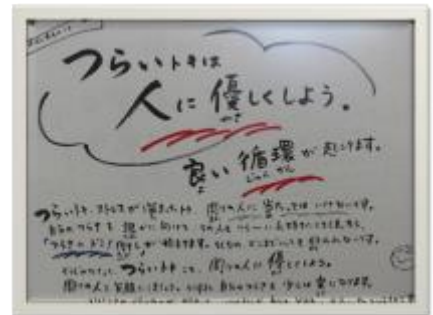
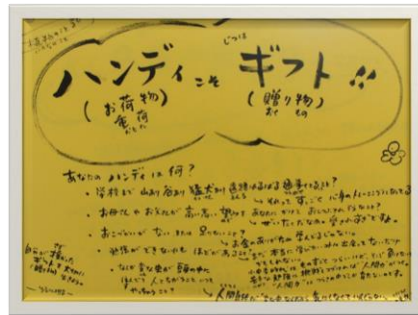


(4) 心に訴えかける環境づくり

① 校内掲示の工夫

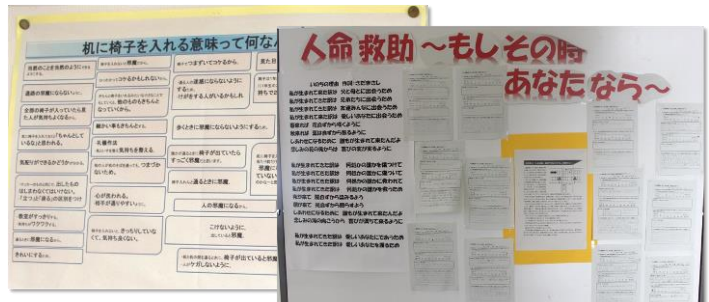


本校では、掲示物に次のような価値付けをしている。1点目は、全校生が1日に何度か通る職員室前の廊下に、生徒が自らの在り方、生き方を見つめ直すことができるような掲示を行っている。特に、「いのち」や「人権」に関する内容、心が落ち込んでいる生徒を励ます内容など、心に染みる温かなメッセージである。



2点目は、掲示による授業後の振り返りが行えことである。授業で、生徒が記入したワークシートを教室内や廊下に掲示することで、より多くの意見を知ることができる。授業後に、自分の意見と他のクラスの友達の意見を比較することができ、考えを深めたり、多様な意見を受容したりする姿勢が育まれると考える。

心温まるメッセージ (毎週更新)



授業の振り返り (クラスや学年での共有)

3点目は、行事等の写真掲示である。学校、学年、学級を通して、様々な行事の写真を掲示することで、自然と行事の振り返りを行うことができる。行事の後には、行事に対しての感想を短歌にしたり、レポートにまとめたりしてクラスで掲示している。行事に懸命に取り組んだ姿や感想を通して、仲間と団結することの尊さ、一つの目標に向かって努力することの大切さについて見つめ直す機会となっている。



学びや活動の振り返り

② 朝の道徳

毎週月曜日の朝、各学級にて読み物資料や詩の朗読を聴き、自分が感じたことや考えたことなどを書き綴った。心に響く内容やタイムリーな話題などについて考えることで、心の醸成につながっている。

この取り組みは、まだまだ緒に就いたばかりであるが、今後はICT機器による映像も駆使して、内容の充実を図っていきたい。



読み物や詩の朗読による朝の道徳

③ 全校・学年一斉道徳

毎年本校では、「道徳の日」として、各界で活躍している方々を招き、講演を聴く機会を設けている。今年度は4名の講師の方々を招へいた。様々な分野の方々から話を聴くことを通して、物事を広い視野から多面的・多角的に考えたり、人としての生き方を考えたり、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てたりしている。

◎ 国際交流活動に取り組んでいる社会教育団体SYDの青木富造氏、山口智恵子氏からは、フィリピンのストリートチルドレンの話をしていただいた。

- ・ 僕がこの講演で一番印象に残ったのは、子どもたちの笑顔です。とても裕福とは言えない生活の中でも、なぜ生き生きとした表情でいられるのか。僕は、とてつもなく恵まれた環境で生活していますが、あの子どもたちのように笑って、前を見て生きていこうと強く思えました。
- ・ 私は、フィリピンのセブ島とマニラに行ったことがあります。そのときにバスに乗っているとストリートチルドレンがお金をくれと乗ってきました。いま私たちがしている生活はぜいたくすぎなんだと思いました。これからは、当たり前前の生活ができることに感謝し、一生懸命に生きようと思います。



ストリートチルドレンの実態に学ぶ

◎ 本校出身のテレビせとうちアナウンサーである佐竹明咲氏には、「夢に向かって」という演題で話をしていただいた。

- ・ 夢に向かって挑戦するというのは、自分で道を創るものなのだと思います。この準備の大切さが、夢に向かっていく私たちにとって無関係ではないということに気付かされました。今、できる限りのことに挑戦し続けたものは、将来、必ず役に立つと思います。
- ・ 印象に残った言葉がいくつもあります。特に印象的だったのは、「挑戦」という言葉です。もう1つは、「叶わないと思ったら、叶う夢も叶わなくなる」という言葉です。私は、いやなことから目を背けている部分があるので、強い意志を持って努力したいです。



夢に向かって挑戦することの大切さを訴える佐竹氏

といった生徒たちの言葉から未来を見据える姿がうかがえた。

講演には、保護者や地域の方々にも大勢参加していただき、生徒たちとの間で共通の話題を提供することができたと考える。

◎ 近年では、これら以外にも、事故で半身不随になりながらも周りの人々の励ましで奇跡的に復活した腰塚勇人氏をはじめ、劇作家の平田オリザ氏や岡山県立盲学校の元教頭先生の竹内昌彦氏、世界一清潔な空港のカリスマ清掃員である新津春子氏などを招き、心に響く話をしていただいた。



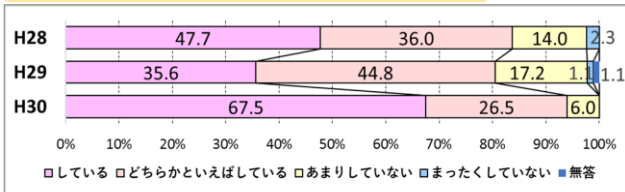
当たり前に感謝する心を腰塚氏に学ぶ

4 研究の成果と課題

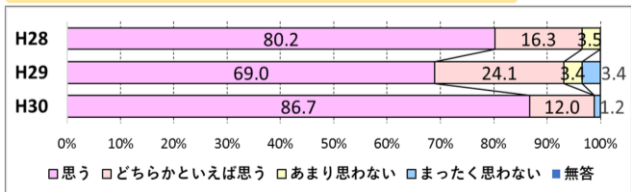
(1) 成果

次の平成28・29年度のグラフは、現3年生の1年次及び2年次の県学習状況調査の生徒質問紙の結果である。また、平成30年度のグラフは、1・2年生の県学習状況調査の時期に、3年生にも同じ内容の調査を行った結果である。その結果、それぞれの項目で大幅な改善がうかがえる。

人が困っているときは、進んで助けていますか。

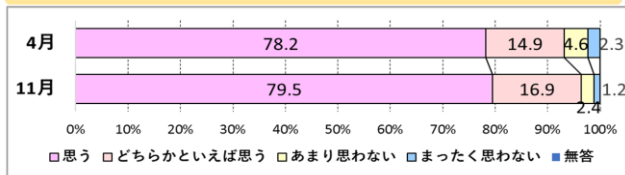


人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

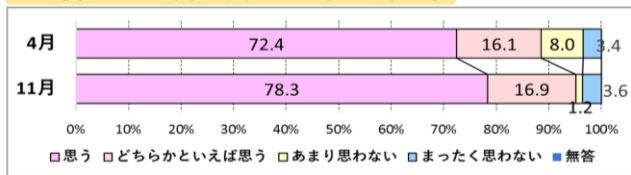


次のグラフの4月の数値は、本年度3年生の全国学力・学習状況調査生徒質問紙の結果である。また、11月の数値は、先ほどと同様、同一内容の調査を県学習状況調査の際に3年生にも実施した結果である。それぞれの調査項目で、改善がうかがえる。本年度、道徳の時間を通じて、自他の個性を見つめて、よさを認める指導やいろいろな立場になって、そのとき自分ならどうするか、自分に何ができるかについて考えさせる指導を繰り返してきた結果と考える。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



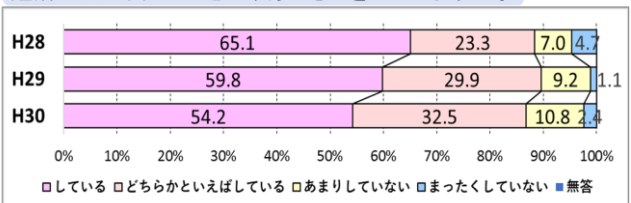
(2) 課題

上記と同様の方法で調査した結果、ほとんどの項目で改善が見られたものの「近所の人にあいさつをしていますか」という質問については、「している」と回答した生徒の割合が年々減少している。「どちらかといえばしている」を合わせると、大きな変動はない。しかし、ボランティア活動等を通じて、地域の方々とのふれあいを大切にしている本校としては、残念な結果となった。

その要因として「自尊感情」の低さと相関関係があるのではないかとされる。右のグラフは、同一学年の経年比較データであるが、学年が上がるにつれて、自己有用感や自己肯定感の低下がうかがえる。自分に自信が持てない生徒、そのことが、見知らぬ人とのコミュニケーションを妨げているのではないかと考える。自分を恥ずかしいと思う気持ちが強かったり、対人関係をつくるのが苦手だったりする生徒が多いということを示している。

今後は、道徳教育を通じて、根気強く何かをなしとげようとする実践力や夢やあこがれを抱かせる取り組み、生徒を称賛し、よさを認める取り組みなどに力を注ぎたい。さらには、地域の方々の力添えをいただきながら、自分に自信をもたせ、人とのかかわりに積極的になれるよう働きかけていきたい。

近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。



自分には、よいところがあると思いますか。

